

2021年のドイツにおける総選挙の 結果について

——ドイツ左翼党と欧州左翼党の見解——

2021年10月

目次

1. ドイツ左翼党幹部会 「2021年のドイツ連邦議会選挙の結果について」
2. 欧州左翼党議長 「ドイツでの選挙」

編集・発行 民主主義的社会主義運動 (MDS) 理論政策委員会

*この『翻訳資料』は、MDSのホームページ (<http://www.mdsweb.jp/>) から無料でダウンロードすることができます。

【訳者まえがき】

2021年9月26日に投開票されたドイツの連邦議会選挙では、メルケル首相の所属する与党であるキリスト教民主・社会同盟が47議席を減らす一方、メルケル政権における連立相手であった社会民主党は54議席を増やして第1党となった。社会民主党は緑の党および自由民主党との連立政権を模索して、交渉を進めている。メルケル政権の美化が目立ったマス・メディアの選挙前報道にもかかわらず、キリスト教民主・社会同盟の得票数は大きく減少し、同党は連立政権形成の主導権をすでに失っている。

その一方、社会民主党よりも左に位置して民主主義的社会主義の実現を謳うドイツ左翼党は、2017年の選挙における69議席から39議席へと大幅な後退を余儀なくされた。ドイツ左翼党は、社会的な公正と地球環境保護とを両立させようとする政策を選挙綱領において打ち出していたにもかかわらず、党内での意見対立に由来する政策情報発信の内容での齟齬・矛盾が災いして、深刻な敗北を喫することになった。

以下に訳出したのは、連邦議会選挙の結果に関するドイツ左翼党幹部会の決議と、欧州左翼党議長のコメントである。欧州左翼党は、ドイツ左翼党をはじめとしてフランス共産党やギリシャのSYRIZAなどが加入している、欧州の左翼諸政党の国際的な連合組織である。

1. 2021年のドイツ連邦議会選挙の結果について

2021年10月3日

ドイツ左翼党幹部会決議 2021年214号

左翼党幹部会は、2021年の連邦議会総選挙の結果について以下のとおり表明する。

1. この選挙は、ドイツ左翼党にとって劇的な敗北であった。私たちは、この選挙結果について私たち自身が第一の主要な責任を負っていることを承知している。私たちの手に負えないような敗因もあった。しかし、私たちは根本的な問いを自らに対して投げかけなければならない。それは私たちの誤りについての問いであり、私たちの社会的な役割とプロフィールについての問いであり、自由で民主主義的な社会主義社会という私たちの理念についての問いである。

2. 私たちは、選挙運動で活動した何千何万という多くの人びとに感謝する。私たちはまた、ゲジネ・レッシュ、グレゴール・ギジ、ゼーレン・ペルマンに感謝する。彼らは、悲惨な選挙結果であるにもかかわらず私たち左翼党が連邦議会での議席を確保することを保障してくれたのである¹。私たちは来る数カ月間に、誤りから、そしてまた良い実例から学ぶために、党の基礎組織の協力を得ながら敗北の原因を検証することになる。私たちは、選挙運動の前後に2800名を超える人びとが新たに入党したことを喜ばしく思う。

¹ ゲジネ・レッシュ、グレゴール・ギジ、ゼーレン・ペルマンは、それぞれの小選挙区において連邦議会での議席を確保した。

3. 敗北のより深い原因は、ドイツの東部と西部の両方における左翼党の構造上の問題に求められる。私たちは過去の数年間に多数の支持者層を失い、あまりにも少ない新たな黨員しか獲得することができなかった。今回の選挙は、私たちが——若干の例外を除いて——全般的な敗北を喫したことを明らかにしたのだ。したがってこれからは、党を建設し、地方自治体の政治の中にしっかりと根を張ることに、高度の優先順位をあたえなければならない。私たちは、新しい黨員を党に定着させることに特別の注意を払わなければならない。

4. たとえ今回の選挙結果の原因が多岐にわたっていると看做しても、連邦議会選挙の敗北は近年公然と行われた党内紛争の結果でもある。これは、——一連の明確な綱領と党幹部会や党大会の決定があったにもかかわらず——現在の主要な問題に関する矛盾した情報発信をもたらすことになった。これを変えなければならない。したがって新たなスタートは、党と議員団とのあいだに、そして連邦議会議員団のなかにおいても、より良い意見調整を確保することをめざさなければならない。新しい連邦議会議員団と議員団執行部は、選挙公約に基礎を置きながら一致団結して活動するという大きな責任を負っている。

5. 新政府は、この国とヨーロッパと世界の人びとの将来に大きな責任を負っている。未来を志向する私たちによる〔新政府のものとは〕異なる政策の基準は明白である。それはすなわち、手ごろな家賃、高齢者を貧困から守ること、富の公正な分配、介護の危機に抗する決然とした取り組み、軍縮と平和的な対外政策、社会的に公平で首尾一貫した気候保全、反ファシズムと反人種差別、そしてジェンダー平等への支持である。新政府が信号灯連合となろうが、ジャマイカ連合となろうが²、私たちは野党として政府に圧力をかけ、コロナ危機や気候危機や産業リストラの負担が労働者や住民の多数派に対して押しつけられることがないように保障するだろう。私たちはこれを左翼党だけで行なうのではなく、社会運動や気候保全運動の内部で、ひいては労働組合とともに行なうであろう。そして、新政府に見捨てられようとしている何百万もの人びとの利益のために行なうであろう。私たちは首尾一貫した対抗的政策を追求し、左翼としての代替案を示すつもりである。

6. 私たちはただちに以下の措置をとる。

- ・党幹部会と連邦議会議員団とによる会議をただちに開き、選挙結果が共同の活動と議員団の活動にとって有する意味合いを討議し、共同の行動を決定する。これは、幹部会と議員団との恒常的でより緊密な調和へといたらなければならない。

- ・私たちは、左翼党の黨員たちや支持者たち、そして市民社会やNGO〔非政府組織〕や労働組合の活動家たちとの対話を追求する。私たちは有権者たちの声に耳を傾けようと思う。私たちは、「あなたはなぜ左翼党に投票したのか？」だけでなく、「あなたはなぜ（もはや）左翼党に投票しなくなったのか？」と尋ねてみたいのである。これを行なうために、私たちは戸別訪問による対話を継続する。党の内部では私たちは、たとえば地方での会議、黨員たちとの電話会談、そして党幹部会委員による郡の組織（Kreisverbände）³への訪問によって、対話を追求する。

- ・新たな連邦政府、政党システムの激変、そして国民政党⁴の衰退を考慮に入れながら、党幹部会は左翼

² 信号灯連合とは、社会民主党と自由民主党と緑の党の連立政権を指す。これは、社会民主党のシンボル・カラーが「赤」、自由民主党のそれが「黄」、緑の党のそれが「緑」であり、これら3色が信号灯の3色と同じであることに由来している。それと同様にジャマイカ連合というのは、キリスト教民主・社会同盟（黒）と自由民主党（黄）と緑の党（緑）の連立政権を指すが、これは3党のシンボル・カラーがジャマイカの国旗に使われている3色と同じであることに由来している。

³ 郡（Kreis）は、市町村（Gemeinde）の上にある広域の行政単位である。

⁴ 「国民政党（Volkspartei）」というのは、階級や利益団体などの特定の支持者層に限定されず、広くドイツ国民全体に支持者層を有する政党という意味で使われる。キリスト教民主・社会同盟や社会民主党が、この用語を自党向けに好んで用いた。

党の戦略的方針の案を提示する。

- ・各州の組織と協力して、党を現場において強化し、連邦議会選挙後も左翼党にとどまっている多数の新しい党員を党に定着させるための構想を、発展させなければならない。
- ・党幹部会は、政策の内容をさらに発展させることへの合意形成のプロセスに着手する。このプロセスはとりわけ、ドイツ東部のための新たな構想、経済とインフラストラクチャーの社会生態学的な改造、平和的な対外政策、そして連帯にもとづく国際主義を主題にする。
- ・気候正義のための取り組みは、私たちの中心的な政策分野のひとつである。私たちは、次期連邦政府によってとられる対策が気候災害に適切に対処するものになるとは考えていない。ここにこそ、私たちが「社会生態学的な転換と気候正義」というプロジェクト・グループをただちに設立する理由がある。このグループは、党幹部会と連邦議会議員団の成員によって構成される。私たちは、連立政権交渉の早い段階で早くも圧力をかけ、気候の分野における私たちの影響力を（たとえばパリ協定の気候目標を達成するための計画をとおして）いっそう拡大するであろう。

2. ドイツでの選挙

——社会民主党が勝利し、左翼党は手痛い敗北にもかかわらず議会会派を維持した——

2021年9月29日

ドイツの連邦議会選挙の結果、社会民主党（SPD）はキリスト教民主・社会同盟（CDU/CSU）と緑の党を抜いて最多の議席を獲得した。ドイツ左翼党は手痛い敗北を喫した。欧州左翼党の議長であるハインツ・ビーアバウムは、これについて以下のようにコメントした。

今回の選挙は、ドイツ政治における注目すべき転換点をなしている。それはつまり、16年にわたって連邦首相を務めたメルケルの時代の終わりを意味している。社会民主党は連邦議会選挙で勝利し、ベルリン州とメクレンブルク-フォアポンメルン州の地方選挙でも勝利した。キリスト教民主・社会同盟は歴史的な敗北を喫した。緑の党は議席を数多く増やしたが、それは同党による事前の期待を下回るものであった。自由民主党も議席を伸ばした。極右政党である「ドイツのための選択肢（AfD）」は議席を少しばかり失った。「ドイツのための選択肢」は安定した支持を依然として有しているが、彼らのさらなる台頭は抑止された。左翼党は、連邦議会での議席を得るための5%の得票率⁵にわずかに届かなかったものの、連邦議会での会派を形成するために必要な3名の議員候補を小選挙区でかろうじて当選させることができた。左翼党の深刻な敗北によって、選挙前に企図されていた赤-緑-赤の連立政権〔社会民主党と緑の党と左翼党の連立政権〕はもはや不可能になった。

⁵ ドイツの連邦議会選挙法には「5%条項」という規定があり、それによれば、連邦議会選挙の比例区において5%の得票率に達しなかった政党は、原則として連邦議会における議席を得ることができない。

社会民主党は目下、緑の党および自由民主党との連立政権の形成をめざしている。この連立政権交渉はとても困難なものとなるであろう。なぜなら少なくとも、一方における社会民主党および緑の党と、他方における自由民主党とのあいだには、政治的な立場において大きな相違が存在するからである。

喜ばしい報せは、ドイツの首都における家賃の高騰を住民投票によって抑え込もうというベルリンの試みが実を結んだことである⁶。有権者の56%は、ヨーロッパ最大の不動産会社でありドイツ最大の会社のひとつである「ドイツ住宅 (Deutsche Wohnen)」からの取得を中心にして、約25万軒のアパートを収容し社会化するという考えを支持した。住民投票の結果は、ベルリンの次期の州議会に対する法的な拘束力を有してはいない。そうであるとはいえ、この投票結果は、ベルリンの新しい州政府が無視することのできない強力な意思表示とみなされる。私たちはいま、〔法的な拘束力のある〕住民投票を実施するための法案ができあがることを期待している。

左翼党の敗北は、不安定な状況下で働き生活している何百万もの市民にとって非常に悪い報せであった。左翼党はしかし、自分たちの誤りから学び、ふたたび強くなるためにあらゆる努力をするであろう。そのことは、欧州の左翼全体にとってもきわめて重要な事柄である。

⁶ ベルリンにおけるこの住民投票は、連邦議会選挙の日と同じ2021年9月26日に実施された。